



学校だより ~三力一心~

平岩小中学校
校長室通信 No.16
平成28年9月24日

どうなる？ 日本語

この通信は、不定期ですが、
月2回ほど発行します。

先日通過していった台風は、ずいぶんと爪痕を残していったようです。日向市も、中心部や山間部を中心に水害や土砂災害に見舞われたようです。皆様のところは大丈夫だったでしょうか。

本校は、幸いにも被害がなかったので、その後の運動会練習は予定通りに進めることができます。一貫校になって初の9月実施ですが、メリットが大きいような気がします。子どもたちも、暑さが残る中でかなり頑張ってくれていますので、当日をお楽しみに(^_^)

ところで、先日のニュースで「ら抜き言葉」を使う人の割合が半数を超えたことが報じされました。

☆ 「初日を見られた」（見ることができた）

誤 「初日を見れた」

正 「辛いものでも食べられる」（食べることができる）

誤 「食べれる」

校長は、この「ら抜き言葉」には違和感を覚えます。また、パソコンで変換しようとすると「ら抜き表現」という注意が出てきます。

学校では、正しい使い方を指導しているはずなのですが、これが浸透しない現状に少しがっかりしています。

ただ、古代にさかのぼってみると、これまで日本語は「変化」してきました。

☆ 母音・・・現在は「あ・い・う・え・お」の5つですが、奈良時代以前は8つあったとか(ー。ー;)（「い」・「え」・「お」にはもう一つの音があったようです）

☆ 発音・・・奈良時代以前の「は行」は「P」の発音だったらしい。

でも、奈良から室町時代までは「F」の発音に変わり、

日本語の中から「P」の発音は消えていたとのこと。

「P」の発音が復活したのは江戸時代だそうです。

いつの日か「ら抜き言葉」が市民権を得て、正式な日本語として使われる時代がくるのかも・・・。

ただ、今は正しい日本語を子どもたちに伝え、残したいと考えます。私たち大人が、正しい日本語を日常的に使うよう気をつけていきましょう。

ちなみに、「常識」というのは、世の中のほとんどの人が納得したり、賛同したりする考え方や理屈なのだそうです。「ら抜き言葉」を大半の人が使う時代が来ないことを願っている校長です。



うれしい心遣い

最近、子どもたちの心遣いに感動することがいくつありました。特別校時で掃除がない日に、3人の6年生が児童生徒玄関を掃いてくれたり、砂のついたキャップを洗っていると「手伝いましょうか？」と声をかけてくれたり。

このような言動が自然とできる子どもたちが、平岩小中学校にいます。気持ちはあっても言葉にできないだけの子どももいます。少しづつですが、確実に心も育っています。

10月の主な行事

- 1日（土） 日向地区中学校秋季体育大会
- ～2日（日）
- 6日（木） 生徒会役員選挙（6～9年）
- 7日（金） 日向地区中学校秋季体育大会
(陸上)
- 11日（火） 振替休日
- 12日（水） 脊柱側湾検査（5・8年）
- 15日（土） 渚フェスティバル・鑑賞教室
- 18日（火） 日向地区駅伝競走大会

積み重ねていかないと、遠くの大きな目標は近づいてこない

イチロー選手が言えば、すごく納得できる言葉ですよね。

つい、途中であきらめてしまいそうになりますが、将来への道がいくつも用意されている子どもたちには、胸に刻んでおいてほしいと思います。

あ、その前に明確な目標をもつことが必要です。

- 19日（水） 中間テスト（7・8年）
- ～20日（木）
- 〃 実力テスト（9年）
- 20日（木） 食育授業（3・5年）
- 25日（火） オープンスクール
- 〃 学校保健委員会・学校運営協議会
- 26日（水） 校外クリーン作戦
- 28日（金） 日向市陸上大会（6年）
- 31日（月） 高校入試説明会（9年）